



子どもの貧困対策 レベルアップ研修会

2017～第1回～

実施報告書

中央共同募金会「赤い羽根福祉基金」助成事業

社会を良くするたしかな一歩



赤い羽根
福祉基金

子どもの貧困対策 レベルアップ研修会 とは

全国各地で子どもの貧困対策に取り組む支援者を対象とした2泊3日の合宿研修です。2017年2月17日(金)～19日(日)の期間で、川崎市青少年の家(神奈川県川崎市)にて開催しました。全国25都道府県から59人の方々に参加していただきました。この研修は、全国各地で活動する支援者などを対象とした研修です。継続した活動を行うために必要となる組織マネジメント力のアップと、より質の高い支援を行うための事業クオリティアップの視点から、全国で先駆的な取り組みを行う団体から講師を招き、スキルアップを図りました。研修を通してより充実した支援体制を確保し、ひいては各地域の子どもたちやその家族を支える基盤のさらなる強化を目指して行われました。

研修プログラム

2月17日(金)	13:00～13:30	オリエンテーション
	13:30～14:30	アイスブレイク、主催挨拶、研修説明
	14:30～18:30	ワールドカフェ、スタートアップセッション
2月18日(土)	9:00～11:45	NPO 経営戦略 10 のステップ
	13:00～14:30	分科会「社会への発信、メディア対応」 「ケアワークについて」「理事会の役割と育て方」
	15:00～16:30	分科会「行政連携」「地域連携」 「人材育成、ボランティアコーディネート」
	17:00～18:30	分科会「地域連携」「社会的インパクト評価事例」
2月19日(日)	9:00～12:30	クロージングセッション
	13:30～14:00	あすのば活用術
	14:00～15:30	振り返り、閉会式

1日目 全体会

ワールドカフェ、スタートアップセッション「社会を変える組織×地域を繋ぐ組織」

日時: 2017年2月17日(金) 14時30分～18時30分

場所: 川崎市青少年の家2階 研修室1・2

参加者: 59名

講師: 株式会社 PubliCoCOO 山元圭太氏、山科醍醐
こどものひろば 理事長 村井琢哉氏

概要

- ・ワールドカフェ(テーマ: 地域連携、行政連携、ケアワーク、ボランティアコーディネート、資金調達、社会的インパクト評価、理事会の活用)
- ・貧困問題解決のために必要なこと



内容

ワールドカフェでは、参加者が興味のあるテーマ別に分かれ、「一番共有したいテーマ」「一番自慢したいこと」の2つを話し合い模造紙に書き出しました。全3回の席替えを行い、最後のグループでそれまでの議論や感想を集約し、全体で共有しました。その後、山元氏と村井氏によるスタートアップセッションを通して、ワールドカフェのなかで出た意見の解説と、問題提起が行われました。山元氏からは、子どもの貧困問題解決に必要な視点や切り口の整理や、構造・現状分析の必要性をお話いただき、また村井氏からは、アドボカシーの重要性についてご説明をいただきました。講義全体を通して、講師と参加者の壁が取り外され、自分たちが抱えている問題の整理や、問題を解決するまでの道筋を考えることができました。



参加者の感想

- ・活動を通していく上での核となる部分を学べた気がします。
- ・同じ問題意識を抱えている方と交流ができ良かった。
- ・川下の子どもを助けるのは大事だが、川上でおぼれないように予防することが必要なので、考えられるようになりたい。
- ・私たちは何を大切に、どこにアプローチする事が効果的なのか？社会的評価を含め可視化し、元栓を閉めに行くためアクションすることが大切と思いました。



2日目 全体会

NPO 経営戦略10のステップ

日時: 2017年2月18日(土) 9時00分～12時00分

場所: 川崎市青少年の家地下1階 音楽室

参加者: 59名

講師: 株式会社 PubliCo COO 山元圭太氏

概要

- ・本当に社会的成果を出せる、社会・地域を変えられる組織の10要素について
- ・現状分析について
- ・ファンドレイジングは資金調達ではなく、目的達成のために必要なすべての資源を調達すること



内容

研修会2日目午前の講義では、参加者が事前の宿題として提出したアセスメントシートを使って、自団体の課題の確認と共有をしました。講義のなかでは、ビジョン・ミッションを記入するワークや主人公シートの作成、4コマシートの作成など、研修会後に使える手法が多数紹介されました。また、他団体で実際にあった事例も豊富にご紹介いただきました。セッションの終わりごとに、全体で質問や意見の共有がされ、また休憩中にも、参加者同士でのディスカッションや講師への相談などで熱気があふれていました。それぞれ自団体の課題の本質と、それを解決するための方法や道筋を明らかにすることができた貴重な時間となりました。また、組織のマネジメントについて落ち着いて考える時間を取れたことも、大きな成果のひとつとなりました。

参加者の感想

- ・NPO の経営に企業戦略を取り入れるのはこれまでになかった視点であり、とても有効な手段だと思いました。
- ・普段悩んでいる、団体の役割分担や目標を見直すための整理につながるポイントをたくさん教えて頂きました。
- ・事前提出書類に点数を入れながら、頭にガツンとやられた気分でした。
- ・順序立てて説明して下さったので、自分たちの活動に活かせるイメージが出来ました。
- ・いままでは何となくゆるっとやっていたことを、きちっとやっていこうと身の引き締まる想いになりました。
- ・一瞬たりとも眠くなることなく、首が痛くなるくらいなずいてしまいました。もっと聞きたかったです。



2日目 分科会

社会への発信、メディア対応

日時:2017年2月18日(土) 13時00分～14時30分

場所:川崎市青少年の家 地下1階 音楽室

参加者:18人

講師:朝日新聞社 生活文化部 中塚久美子氏



概要

- ・講師の取材歴
- ・新聞の作り方
- ・事前ヒアリングの質問について

内容

講義のはじめに、中塚氏ご自身の取材歴やこれまで取材を重ねてきた想いについて、取材先の母親から受けた『『子どもの芽を最初から摘む社会ってどうなんでしょうね?』という問いかけのこたえを探すために、今まで取材を重ねてきた』とお話いただきました。その後、新聞社の記事の作り方や記者の仕事についてご説明いただきました。「どうすればメディアに取り上げてもらえるか」という質問に対して、「へえ～」と思われることと社会性のあることが大切。プレスリリースを出す際は「事実」を伝えること、正確な数字を伝えることが必要であると教えていただきました。最後に、メディアの役割について、中塚氏は「翻訳者であり、お見合いおばさんでもある。例えば、子どもに貧困を語る際に、教育界は、『社会的損失』で『子どもの貧困』を語ることはよくないという。でも、経済界は『社会的損失』で『子どもの貧困』を語る。その狭間の中で、異分野の人たちとの交流が大切になってきたとき、記事はそうした交流の媒介になる必要があるのではないか」とまとめました。

参加者の感想

- ・メディアのしくみ、メディアの思い、メディアとのつきあい方を学べました。
- ・社会課題を一般化するためにメディア活用は必要なので、発信方法を学べて良かった。
- ・「(活動)をやっている人だから言えることば」というのが印象に残りました。
- ・本音で語っている気がして親しみを感じたし、記事を書く苦労や取材してもらおう際のポイント等具体的なことが聴けて良かった。



2日目 分科会

ケアワークについて

日時：2017年2月18日（土）13時00分～14時30分

場所：川崎市青少年の家2階 創作活動室

参加者：21名

講師：特定非営利活動法人インクルいわて 山屋理恵氏

概要

- ・インクルいわての設立のきっかけ
- ・岩手県の現状と被災地としての背景
- ・子どもや保護者への接し方の注意点
- ・日本の社会の形に合わせた支援法を考える

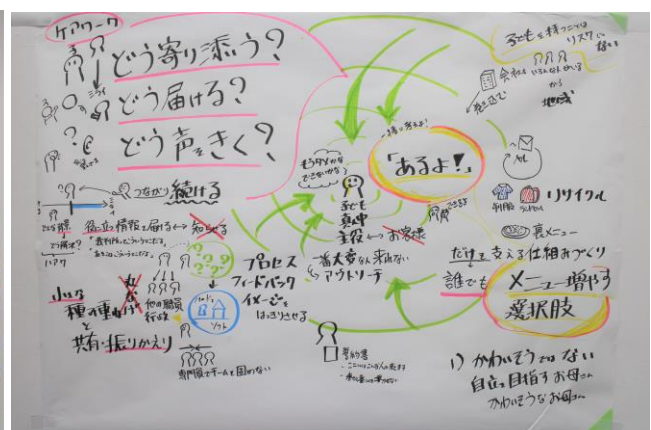
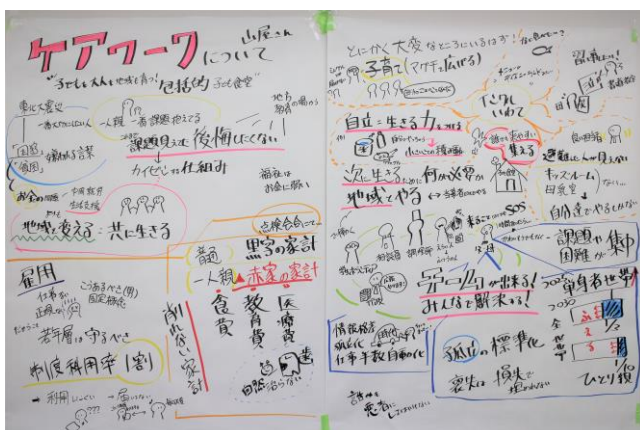


内容

まずは、震災を機に設立したインクルいわての立ち上げ経緯や、立ち上げに至る想いについてお話をいただきました。その後、山屋氏が大切にしている子どもや家族との接し方について、レクチャーいただきました。当事者を「かわいそう」な存在としてとらえるのではなく、社会的課題を抱えている“共に生きる仲間”である。また、子どもや保護者の声を聞くということを大切にし、支援団体側のやりたい支援を行うのではなく、あくまで子どもや保護者の求めるものを用意する姿勢を崩してはならないというお話をいただきました。支援に特効薬や万能薬はなく、そのつど振り返りや共有をしながら、ひとりひとりとの関わりを大切にしていっていかないと、そして子どもや保護者など、仲間たちと一緒に街を作っていくことの大切さと可能性を学ぶことのできた講義でした。

参加者の感想

- ・1対1ではなく、みんなで見守ることが大切ということにヒットしました。
- ・あくまでも当事者目線の支援に頭が下がる想い。反省した。
- ・子どもたちのやりたいこと、やってみたいことを知り、一緒にやることで見えてくることもある。本人が何をしたいかが重要。
- ・「かわいそうな子だと思わないこと」というボランティアへの約束をはじめ、ためになった。



2日目 分科会

理事会の役割と育て方

日時: 2017年2月18日(土) 13時00分～14時30分

場所: 川崎市青少年の家2階 特別研修室

参加者: 16名

講師: 株式会社 PubliCo COO 山元圭太氏

概要

- ・理事会の役割
- ・理事会を育てるための9つのステップ

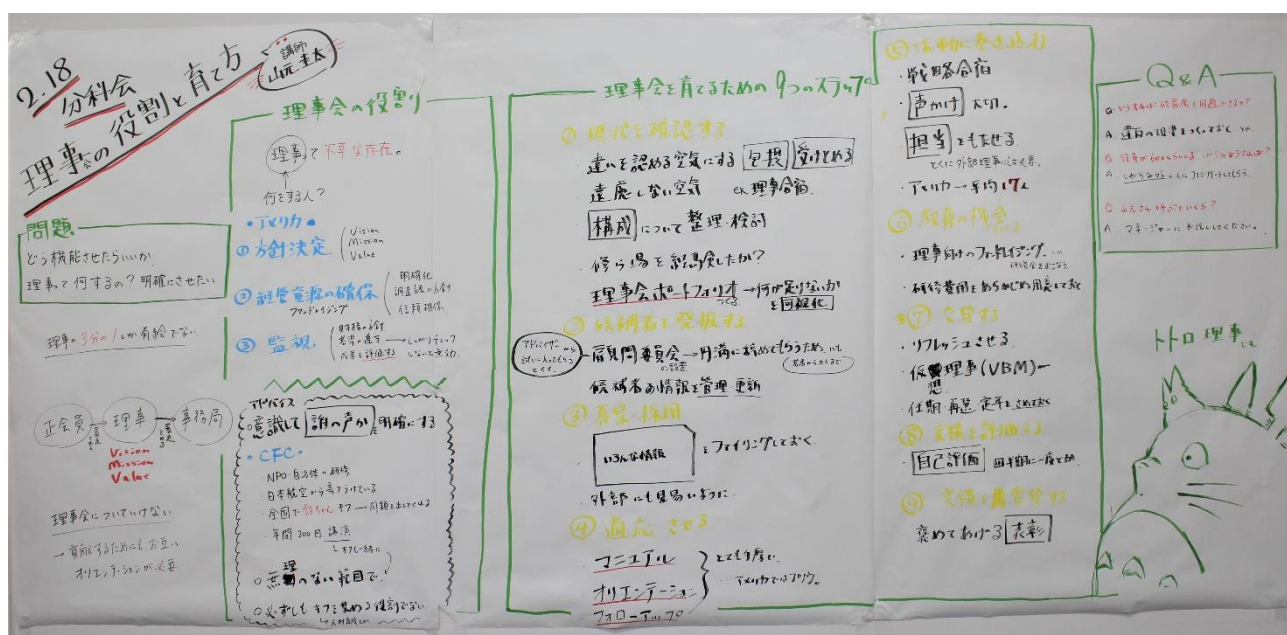


内容

まず、理事会の役割について①方針決定、②経営資源の確保、③監視の3つの役割があるとご説明いただきました。また、参加者から自団体の理事が行っている取り組み、役割について発表をいただくなど、理事の役割について、事例を交えながらご説明いただきました。次に、理事会を育てるための9つのポイントについて、理事の募集や採用の仕方、受け入れ方法などについて具体的なレクチャーをいただきました。理事となる側と受け入れる側の両者にとって、お互いのメリットとなるような関係づくりが必要だとお話いただきました。

参加者の感想

- ・理事会の役割について、承認以外考えたこともなかったので勉強になりました。
- ・今回の話を参考に理事会のあり方を見直して行こうと思います。
- ・理事会ってそもそも何？がわかったのと、重要性がわかった。
- ・何もわからないまま理事をやっていたが、理事の役割、すべき事がわかった。



行政連携

日時:2017年2月18日(土)15時00分～16時00分

参加者:25人

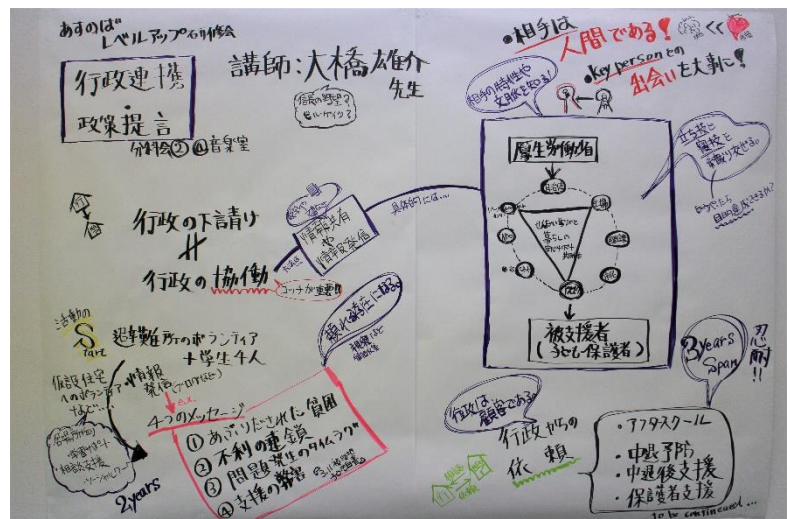
代表理事 大橋雄介氏



- ・アスイクについて
- ・各事業の説明
- ・行政とともに仕事する上でのキーワード

まずアスイクについて、活動内容や立ち上げの経緯についてご説明をいただきました。行政との連携について、団体の立ち上げ1年目から自治体へ足繁く通い、自治体との共同事業を立ち上げた際の具体的なお話についてふれ、連携が必要となった背景や、連携を進める際に工夫したポイントなど、大橋氏が築いてきた事例に沿ってその要素を詳しくご説明いただきました。「行政の下請け(委託)と協働は違い、現場の立場から提案してやるのが『協働』である」と行政連携のあるべき姿についてお話しいただきました。大橋氏は、SNS等を通じて情報発信を行ってきたことで、市にも活動の様子が届いていたことが共同事業に繋がったと分析し、ブログ等で日々の活動記録を行うことのメリットも強調しました。自治体など行政に対して要望する際は、「リソース、予算が必要だと定期的に行政に言い続けること」「できるだけ数値化して、スケジュールなど可視化された書類を作り持っていき話を進めること」がポイントと、レクチャーしていただきました。

- ・行政は顧客である。人と人として対応しましょうという話がとても心に残りました。
- ・行政といっても人であり、先入観を持たずに根気よくコミュニケーションすることが大切だと思いました。
- ・行政連携はこちらから足繁く通うことが大事だと再認識しました。
- ・委託事業でも、現場で必要なもの、制度を提言していこうと思った。



2日目 分科会

人材育成・ボランティアコーディネート

日時: 2017年2月17日(金) 15時00分～16時30分

場所: 川崎市青少年の家2階 創作活動室

参加者: 15名

講師:

山科醍醐こどものひろば事務局長 品田真孝氏

概要

- ・山科醍醐こどものひろばの概要説明、事例紹介
- ・ボランティアの必要性
- ・グループワーク



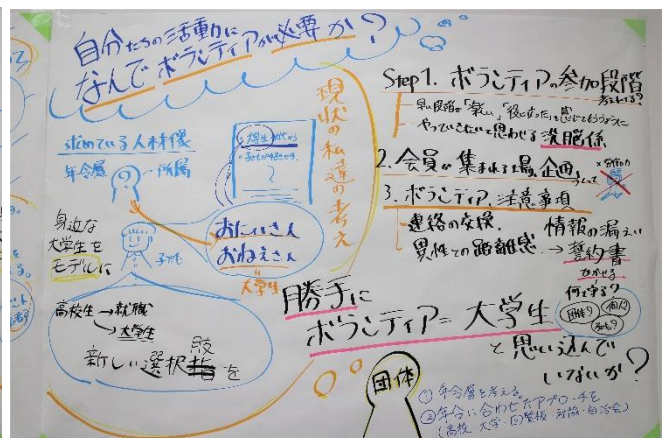
内容

まずは、山科醍醐こどものひろばの事例をあげ、活動に参加しているボランティアの動機について4人のモデルが紹介されました。それぞれ参加のきっかけはさまざまですが、例えば「褒めて伸ばす」ことなど、モチベーションに繋がる体験があったことで活動を継続してきたということでした。

また、ワークショップ形式でディスカッションをしながらボランティアについて考える時間が設けられ、「なぜ自分の団体にボランティアが必要なのか」「イメージしたボランティアの年齢層はいくつだったか」というテーマで、参加者同士、意見を交わしました。品田氏は、「団体にやってくる利用者の子どもたちは自分の進路上に大学進学がそもそも存在しないため、ボランティアとして参加している大学生が身近なロールモデルになってもらえるよう大学生との触れ合いを大切にしてもらいたい」、「大学生にボランティアとしてどうあってほしいか考えながら関わってもらいたい」「自分たちのミッション・目的は何か、それらを達成するためにはどんなボランティアが必要なのかをボランティアを募集する前に考えてほしい」とまとめました。

参加者の感想

- ・地域に根付いた団体の強みを実感した。
- ・ボランティアの参加育成についてのモデルとして参考になりました。
- ・ワークショップもあり、身近で分かりやすかった。
- ・ボランティアを始める動機、きっかけをつかめてよかった。
- ・ボランティアの定着パターン、ボランティアそもそも必要か、想定像など勉強になった。



2日目 分科会

「地域連携」はどうしたら創れるのか～ハートフレンドの活動を通じて～

日時:2017年2月18日(土)15時00分～16時30分

場所:川崎市青年の家2階 特別研修室

参加者:13名

講師：特定非営利活動法人 ハートフレンド

代表理事 徳谷章子氏



概要

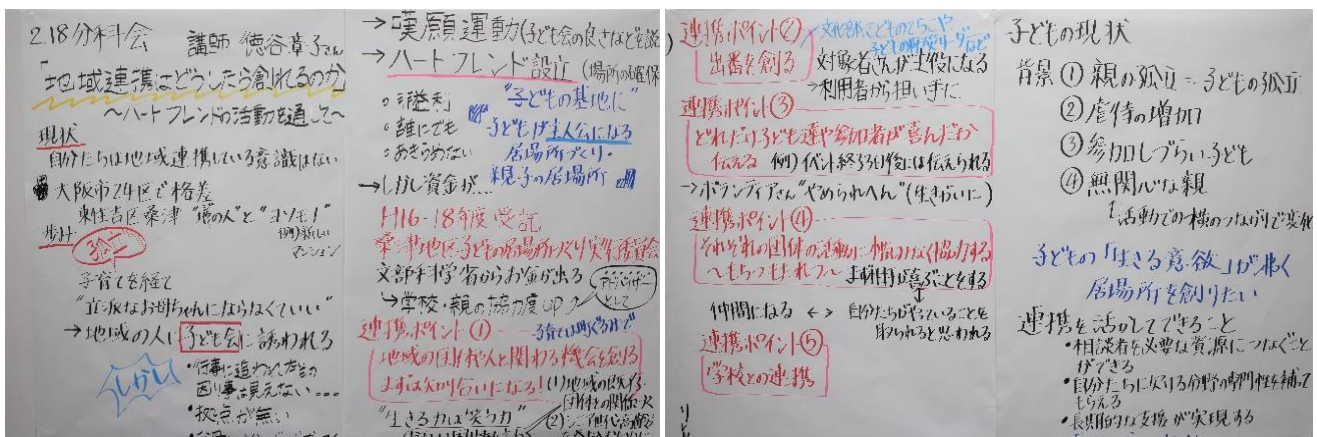
- ・ハートフレンドの設立経緯
- ・どうやって応援団(連携を創るのか)
- ・子どもの現状
- ・連携を活かしてできること

内容

はじめに、ハートフレンドの活動や設立の経緯などについてお話しいただきました。その後、地域連携のポイントとして、次の5つのことをお話しいただきました。1つ目は、地域の団体や人と関わる機会を創ること。2つ目は、出番を創ること。3つ目は、どれだけ子どもや参加者が喜んだか伝えること。子どもや参加者が主役になることで、担い手になっていく。4つ目は、それぞれの団体の活動に惜しみなく協力すること、持ちつ持たれつの関係を創ること。5つ目は、学校との連携。地域の方々を巻き込みながら、参加者が主体となって活動できる場をつくることや、「地域は家族」という考えの下、子育てを地域で行うことで長期的な支援を可能にすることの大切さを教えていただきました。「子どもが主人公になる居場所づくり・親子の居場所」を大切にしている徳谷氏のお話には、参加者から共感の声が多く上がりました。

参加者の感想

- ・どれも興味深い話でした。いろんな所とつながることが、できることを増やす一歩なんだと感じました。
- ・地域で活動するってこういうとこだな、とすごく気づきとパワーを得ました。
- ・地域の人が地域の中でやっていくやり方、大切にすることが知れた。



2日目 分科会

社会的インパクト評価事例

日時:2017年2月18日(土) 17時00分~18時30分

場所:川崎市青少年の家地下1階 音楽室

参加者:34人

講師:公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン

代表理事 今井悠介氏

概要

- ・チャンス・フォー・チルドレンの活動内容について
- ・社会的インパクト評価の概要と取組み事例(自団体)について

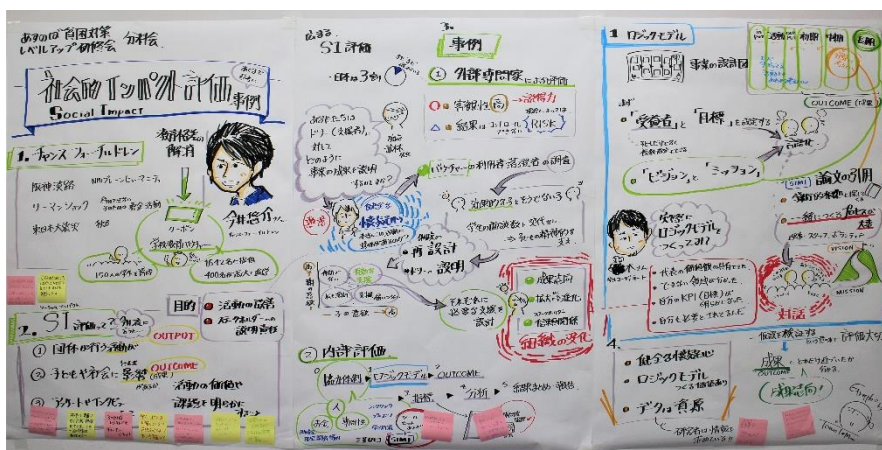


内容

まずは、チャンス・フォー・チルドレンの活動についてご説明をいただきました。次に、社会的インパクト評価について、自団体の事例を交えてお話しいただきました。今井氏は社会的インパクト評価を「①団体が行う活動が②子どもや社会に与えた影響・変化(=成果)を③アンケートやインタビュー等を通じて把握して、活動の活動や課題を明らかにすること」と定義し、その役割を「①活動を改善し、高い成果を出せるようにすること②ステークホルダーへの説明責任を果たすこと」とまとめました。日本では、社会的インパクト評価は遅れているものの、水面下ではどんどん求められてきているというお話しに、参加者からは自団体でも今後取り組んでいきたいという声が上がりました。最後に、「事業に対する懐疑心をもつことの大切さ」と「NPO におけるデータの蓄積の重要性」についてお話をいただきました。

参加者の感想

- ・正しく評価することが社会的な信用を高めることにつながる良かったです。
- ・インパクト評価の話だけでなく、自組織を厳しく見つめ直す必要性を学ばせて頂きました。
- ・「ソーシャルインパクト」ということばは初めて知りました。ロジックモデルの作成、やってみようと思います。
- ・どのようなことをやったら、どのような影響(成果)があるか、その為にどうしていかなければならないか、考える必要があること、やってきたことの情報を残すことの大切さをあらためて感じました。



2日目 分科会

地域連携について

日時: 2017年2月18日17時00分～18時30分

場所: 川崎市青少年の家2階 創作活動室

参加者: 16人

講師: NPO 法人 TEDIC 代表理事 門馬優氏

概要

- ・TEDIC の事業、関係機関について
- ・貞山における TEDIC の取り組み-「ていざん」モデル(学校・地域協働)
- ・地域連携と子ども食堂の取り組み
- ・地域連携をするにあたって

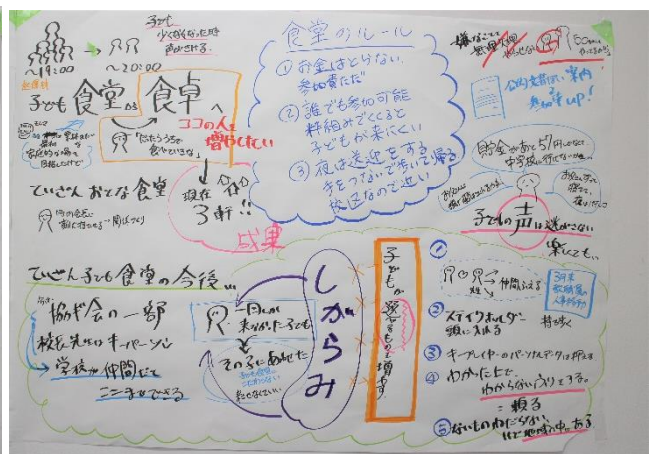
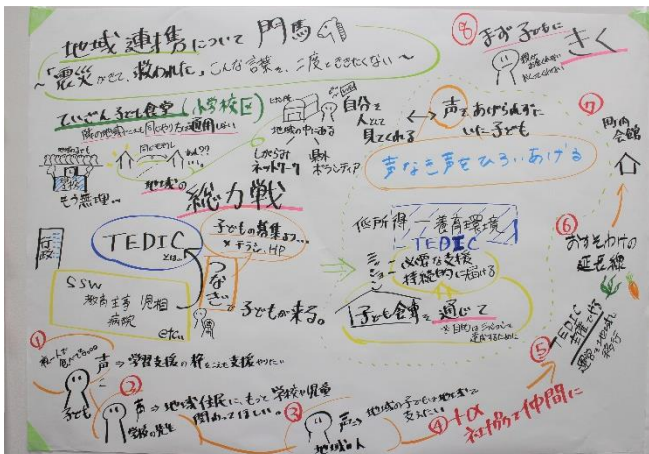


内容

講義は、震災後の宮城県石巻市で活動する TEDIC では、1 人でも多くの子どもたちが「生きていてよかった」と思えるように活動している、というお話しから始まりました。事業内容の説明の後、TEDIC が行っている、児童相談所やスクールソーシャルワーカー、相談機関など、様々な関係機関との連携についてお話しをいただきました。「様々な困難な環境の下に置かれるすべての子どもたちが、自分の人生を自分で”生きる”ことができるように 必要な支援を生み出し、届けると共に、持続的に支援が届けられる地域をつくるのがミッションであり、そのために地域連携は欠かせない。」「子どもにとって安心して安全な居場所が子供自らの力でたどり着くことができる場所にあり、そこに信頼できる大人がいることが大切だと考え、家庭のみならず地域や学校を巻き込んだ場づくりを進めている。」と地域連携の大切さを教えていただきました。また、TEDIC で行っている「ていざん子ども食堂」の成り立ちや発展過程と、その特徴をお話しいただき、「地域連携」の事例を詳しく学ばせていただきました。

参加者の感想

- ・子ども食堂の実情をまじえて地域をどう巻き込んでいくかを学びました。
- ・現場の具体的なエピソードや活動におけるコツを知ることが出来た。
- ・偶然が重なったのかも知れないけれど、必然だったんだろうと思う。すばらしい事業とお人柄に感激した。
- ・一地域の事例だが、アイデアがたくさん詰まっていた。各地でやれることがあると思う。非常に参考になった。



3日目 全体会

クロージングセッション

日時: 2017年2月19日(日) 9時00分～12時30分

場所: 川崎市青少年の家2階 研修室1・2

参加者: 57名

講師: こどもソーシャルワークセンター 代表 幸重忠孝氏、山科醍醐こどものひろば 理事長 村井琢哉氏

概要

- ・幸重忠孝氏による「家計ワーク」、「VIDEO ストーリーを通じた理解」ほか
- ・村井琢哉氏によるクロージングトーク(地域に根付いた活動、継続した活動についてほか)



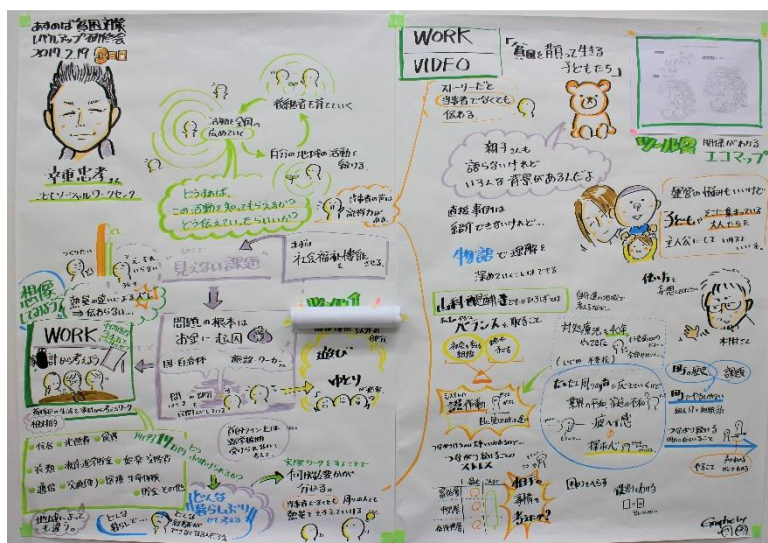
内容

まず、幸重氏による家計ワークでは、中間層の家庭の所得の34万円をどのように使うか、相対的貧困家庭の所得17万円をどのように使うかを考え、話し合いました。また、VIDEO ストーリーを鑑賞し当事者の親子が抱える背景の理解を進めました。ワークや VIDEO ストーリーを通して、問題への関心が低い人たちへの理解の促進に役立つことを教えていただきました。

村井氏からは、目の前の子どもへの対応の中で生じる疲弊感と社会をどうにかしたいという探究心の狭間の中で、どのように活動をやり続けるかということについてお話をいただきました。クロージングトークとして、3日間の研修を通して学んだことをそれぞれの団体へ持ち帰り、しっかりと根付かせるためにはどうしたらよいかという視点でお話をいただきました。

参加者の感想

- ・熱や情報を周囲に伝える・難しいと思ってましたが、参考にします。
- ・熱くなりすぎたものをしっかりとクールダウンしてもらえました。
- ・温度差・立場の違いでの伝え方で、ワークや映像を使うのは良いとわかり、新たな発見でした。
- ・自分自身が貧困に対する実感が弱かったので、家計ワークは面白かった。持ち帰って自団体に合う形でやってみたい。



3日目 全体会

あすのば活用術、振り返り

日時: 2017年2月19日(日) 13時30分～15時30分

場所: 川崎市青少年の家2階 研修室1・2

参加者: 57名

講師: 公益財団法人あすのば 代表理事 小河光治氏、副代表理事 村井琢哉氏、事務局長 村尾政樹氏

概要

- ・あすのば活動概要
- ・質問シートによる質疑応答
- ・参加者による3日間の振り返り(グループディスカッションほか)



内容

事務局長村尾からあすのばの団体概要の説明をさせていただき、その後、参加者に事前に配布・回収していた質問シートに沿って、質疑応答を行いました。質問内容は、自治体への政策提言する際の方法や、あすのば子どもサポーターについてなど幅広いご質問をいただきました。あすのばと一緒に併走していただける団体とのつながりを大切にし、増やしていきたいという想いをお伝えさせていただきました。また、振り返りでは、4～6人1組でグループになり3日間の研修内容の共有をするとともに、「1年後の目標」と題し各々が1年後どうなっていきたいかということについて考え、その目標をグループ内で共有し、3日間の研修に幕を閉じました。

参加者の感想

- ・皆で力を合わせれば本気で貧困なくせるかも……。って思ってきました。
- ・各地の情報を収集して、各団体がうまく活用できるようなことを期待しています。
- ・今後協力できることは協力し、よりよい世の中にしていきたいと思います。
- ・これまで、つながる事の意味はわかってたつもりだったのですが、大きな流れに乗ってあすのばを中心につながっていると実感できることで、がんばれるし、色んな事が一気に進む気がしています。



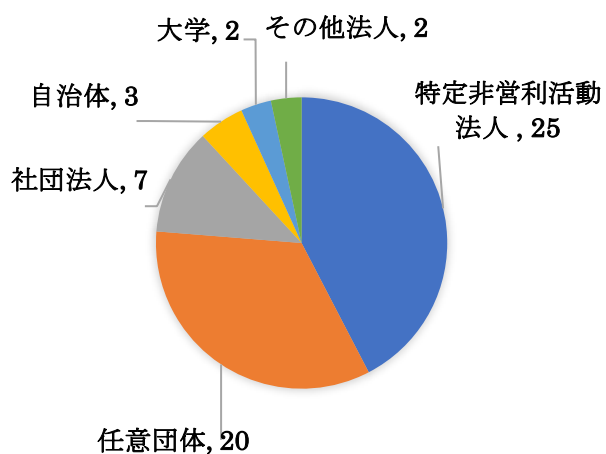
参加者の感想(一部抜粋)

- ・子どもを考えた組織運営を包括的に学べて良かったです。
- ・3日間長かったです、まるっとすべて血肉になるような学びばかりでした。自分の団体の弱点もみえ、どうしていったらいいかを学び、自分の中でも1つの指針をもつことができました。「貧困」というひとつのベクトルの中でこんなにたくさんの仲間がいることも明日からのエネルギーになりました。あすのばのみなさん、学生の皆さんお疲れ様です。ありがとうございました。
- ・個々の研修として自己研鑽になりました。しかし、交流がプログラム以外が多く、せっかく全国からの参加である機会なので、じっくり交流する機会が欲しい。学生のみなさん、お疲れ様でした。数名の方とお話して、意識や意欲の高さを感じました。せっかくの出会いなので、最初に全員の紹介があると良かったかなと思います。次回開催も期待しています。
- ・こんなにも多くの方々と話しをできたのは初めてです。すごく楽しかったです！ありがとうございます。第二回目、楽しみにしております。
- ・様々な視点から子どもの貧困を見ることが出来た。横の繋がりがあることの心強さも感じている。
- ・たくさん新しいことを学び、まだまだできてないことばかりと思ったけど、できていることも認識することができた。
- ・目線を川上にあげて頂いた気がします。まずは足元を固めてですが、少しでも役に立てるようにになれば、と思います。本当にありがとうございました。
- ・まず、事務局の方、学生の方、お疲れ様でした。大変充実した3日間でした。次回レベルアップ研修会を実施する機会がありましたら、ぜひ団体の規模あるいは形態でグループ分けして頂き、その中で課題を出し合ってディスカッションできる時間があればいいなと思いました。理事会のある団体もあれば、1～2人で活動する団体もあるので、困りごと、規模や形態(子ども食堂、学習支援、親支援)にわかれているとより具体的に解決に向かえるのではないかと思います。
- ・久々のハードな研修でしたが、内容が充実しており期待以上の得るもの、今後の活動に参考になりました。感謝いたします。また、事前にアセスメントシートを記入し改めて団体を異なる点から考えることができました。
- ・バラエティーにとんだ講師陣の話しが聞けて、また活動の中で実践できそうなヒントもいっぱいもらったので良かったです。
- ・多くの団体、個人と繋がることができました。また、多くの新しい知識もインプットできたので、上手に消化、吸収していきたいと思います。本当にお世話になりありがとうございました。
- ・今回のような合宿を全国で広げてほしいと思います。自分と同じ悩みを抱えている人がこんなにもたくさんいて、と同時に全国各地でここまで意欲的に活動されていて、とても刺激を受けました。素晴らしい学びの機会を提供して下さい、ありがとうございました。
- ・たくさん全国の方々が参加して頂いたのもう少したくさんの方との交流が出来たらいいな~と思った。スケジュールの時間がいっぱいいっぱい、もう少しゆとりがあつてほしかった。参加者の中で、ある程度成功している方々の話も聞きたかった。本当に参加させていただき本当に助かりました。感謝しています。今回の研修で学んだ事で、自分が出来ることから行動してみたいと思いました。ありがとうございました。

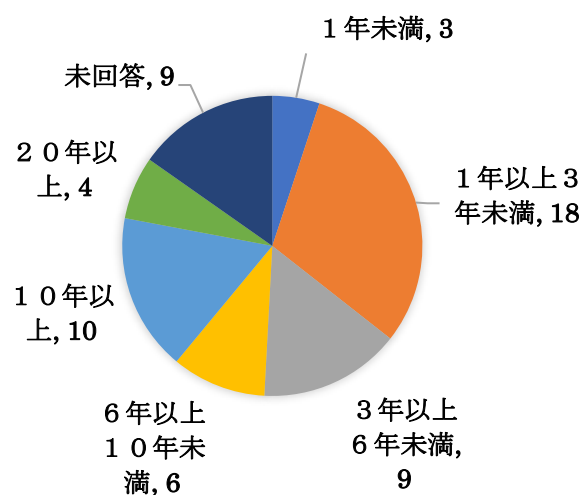
参加者データ

単位：人数（計59人）

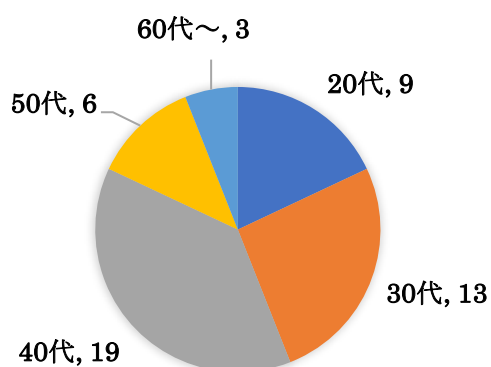
所属



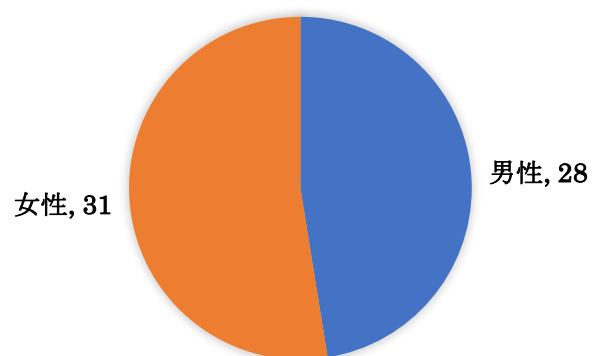
活動年数



年齢



性別



子どもの貧困に関する研修会などへの参加経験

